

社会教育と行政施策

2026年8月

笹井宏益

生涯学習時代の学びのスタイルとは（１）

一人で学ぶ

メディアを使って学ぶ
（読書、ネットで情報収集）

非日常的な活動で学ぶ
（旅行、ボランティア活動）

仲間（他者）とともに学ぶ

グループ・サークルで学ぶ
（集団学習）

講座やセミナー、研修会で学ぶ
（集合学習）

生涯学習時代の学びのスタイルとは (2)

学校（大学院や専門学校）や研修所で学ぶ

専門的な知識やスキルを体系的に学ぶ

多様なバックボーンを持つ人たちと関わり合って学ぶ

自らの人生設計やライフキャリアを自らつくる

「仲間同士が関わり合うこと」がなぜ学びなのか

仲間同士の関わり合い → コミュニケーション活動

1) 情報の提供・蓄積（価値の共有）

相手から情報を得て自分に蓄積することができる

2) 気づき（価値の発見）

相手とのやり取りで様々なことに気づく

3) とともに創る（価値の創造）

相手とともに新しい価値を創造することができる

仲間（他者）とともに学ぶことの意味

仲間（他者）とともに学ぶことで、互いに成長し、
地域において、前向きに実践する人が増える

グループ・サークルで学ぶ（集団学習型）

講座やセミナー、研修会等で学ぶ（集合学習型）

ボランティア活動をととして仲間と学ぶ（ボランティア型）

社会教育法における社会教育の定義

定義

- ◆学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動をいう

行政の 任務

- ◆すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら实际生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない

学校教育と社会教育との相違（１）

学校教育は

システムチックな活動

Formal

形式化・制度化された活動

- 組織的な活動
- 計画的な活動
- マネージメントのもとでの活動（学校経営の存在）

社会教育は

機能（作用）的な活動

Non-formal

形式化されない、多種多様な活動

- 緩やかなつながりによる活動
- 緩やかな計画に基づく活動
- 自由な運営による活動（緩やかな社会教育経営）

学校教育と社会教育との相違（２）

学校教育

システムチックに組織化されている
→教育委員会・指導主事・校長・教員

システムチックに計画化されている
→朝礼・授業・給食・部活動・学校行事

社会教育

ゆるやかに組織化されたり計画化されている
→グループ・サークル・団体（集団学習機能）
施設に集まってする活動
→講座・セミナー・学習会など（集合学習機能）

現代では、特定の「場」に集まって、対話したり、相談したり、
一緒に活動したりすることも、集合学習に含める方向⁸

社会教育とは？（文科省の説明／福祉の事例）

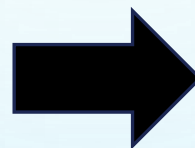


代表の栗栖真理氏（訪問看護師・ケアマネージャー）は、その動画の中で、日々の介護の活動の中で社会教育の活動がいかに重要かに触れており、地域福祉における社会教育が果たす役割について、次のように語っている（以下、発言の一部を抜粋）。

『本来は、活動の中でインフォーマルなサービスもどんどん作っていくことも本来ケアマネの仕事だったのですが、ほんとにいつの間にか介護保険屋みたいになっちゃって、既存の介護事業を貼り付けることをケアプランだと思っていたのですが、そうじゃないんですよね。介護サービスでゴミ捨ててもらえますかという住民の意向があったとしても、いやそんなことに介護保険を使うんですかってこともあるし…。でも、当事者は1番困っているんですよね。地域で話し合う中で、皆が「それって自分もゴミ捨てられなくなるかもしれない…」っていう気持ちを持ち、自分たちはどういうことができるだろうかって考えることがとても大切なことに気がつきました。あなたの困り事は私の困り事になるかもしれないっていう発想が、地域をあげて健康なまちづくりをする上で一番大事な点なんですよ。』

社会教育の基本原則

相手（仲間）がいて
初めて成り立つ活動
つながりがあることが前提



相手との関わり合いにより
お互いが成長する活動
つながりの中での学び合い

近年は、地域住民の孤立化の進展
を背景に、特定の場を集って対話
や相談などのコミュニケーション
活動を行うこと（社会参加活動）
も社会教育につながる活動である
という認識が広まってきている

社会参加から社会教育実践までのプロセス

1) 他者と接する (例 カフェなどで新聞を読む)



2) 他者と対話する (例 気軽におしゃべりをする)



3) 他者と情報を共有する (例 共通の課題を見つける)

4) 他者と関わり合う (例 課題を共有し議論をする)

5) 他者とともに実践する (例 課題を共有し作業をする)

学校教育と社会教育との相違（復習）

学校教育は
制度として存在

システムチックな活動

Formal

形式化・制度化された活動

- 組織的な活動
- 計画的な活動
- マネージメント（学校経営）が重要

体系性
階層性
自己完結性

社会教育は決して「学校教育の補完」ではない！

社会教育は
制度の外に存在

機能（作用）的な活動

Non-formal

あまり形式化されていない多様な活動

- 緩やかなつながりによる活動
- 緩やかな計画に基づく活動
- 緩やかな社会教育経営が重要

イベント性
対等性
開放性

社会教育の特徴を踏まえた社会教育行政の特徴



社会教育行政を実施する際の基本的視点

公共性の所在

- 地域課題の抽出・共有・解決のための学びに着目
- ボランティア活動を促すことにつながる学びに着目
(いわゆる「知の循環」論)

条件整備

- 活動の自由を尊重した条件整備
- 知り合う場や学び合う場の整備
- 人々の組織化に着目した条件整備

学ぶプロセス重視

- 継続的で発展的な議論や対話を促す活動の必要性
- 専門職員によるファシリテートやコーディネート必要性
- 社会教育委員による地域の意向の反映

キャンパスおだわらについて

学びを地域で活かすことに公共的価値をおいている
個別機能を持つ自治体は多い。小田原は、周知・相談・登録を一つの仕組みとして運営している

01

学習情報の周知

講座や学習機会を届け、
学びへの入口をつくる

02

学習相談支援

関心や課題に応じて、
学び方・次の一步を支える

03

人材バンクの登録

学習成果や経験を登録し、
地域で活かす機会につなぐ

諸機能の一体化により「学ぶ」から「地域で活かす」までが切れ目なくつながる仕組みを構築

各地で学習成果を地域へつなぐ「人材バンク」が運営されている

登録対象と活動先には違いがあるが、知識・技能・経験を地域へ還元する目的は共通する。

自治体	制度名	特徴
松原市	まっcom (生涯学習人材バンク)	日頃の学習成果や豊かな経験をボランティアとして登録。地域・学校・サークル等へ出向いて指導・支援。
あきる野市	生涯学習人材バンク	専門知識・技能だけでなく学習経験も登録対象。学校、地域団体、サークル等の活動を支援。
栃木市	生涯学習人材バンク	知識・経験・技術を持つ人・団体を生涯学習ボランティアとして登録。地域や学校の要請に応じて活動。
横浜市中区	なかく街の先生	仕事や趣味で培った経験・知識・技術を登録。講座に加え、イベントでの特技披露も対象。

共通点は、学びを地域活動へ変える循環の制度化

制度は、個人の学習成果を地域のニーズへ接続する媒介になる。



制度設計では目的の明確さと活動先の具体化が鍵？

参考例として、松原市は目的が明確で、栃木市は地域・学校支援まで活動類型を具体化している

松原市

制度目的を明確に掲げる

「日頃の学習の成果」を制度目的に置き、登録者が地域や学校へ出向く形を明示。

栃木市

活動の受け皿を制度化する

「学び教え合う身近な学習環境づくり」を掲げ、地域・学校支援活動まで活動類型に位置付け。

キャンパスおだわらの強みは、情報・相談・登録を一体化し、この循環を入口から支えられることにある？

社会教育と地域づくりとの関係

- ◆ 生活文化と基礎として地域が成り立っている
- ◆ 人間関係と基礎として地域が成り立っている
- ◆ 「学び合い（相互に高め合う・磨き合う）の関係」は、住民一人ひとりの力量を高め、その広がり、地域づくりに直結する
- ◆ 様々な地域資源の存在は、社会教育にとって重要な財産

社会教育は、人づくりをとおして、地域づくりを推進する！ 19

社会教育委員制度

社会教育委員 制度の意義

諸計画の立案に対する助言
教育委員会の諮問に応じ意見陳述
職務を行うために必要な研究調査
教育委員会の会議に出席し意見陳述

社会教育委員とは「地域と行政をつなげる人」

地域にある課題を発掘・把握・提示する

課題の解決に向かって様々な資源を結びつける

地域住民の意見を行政の施策に反映する

地域住民の意向を行政の計画・プランに反映する

報告や雑誌記事など様々な形で情報発信をする